

(様式8)

## 公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成22年11月30日)

事業コード	H22-建-終-9		区 分	国庫補助	県単独
事業名	重要港湾改修事業		部 局 課 室 名	建設交通部 港湾空港課	
事業種別	臨港道路		班 名	港湾班 (tel)018-860-2541	
路線名等	臨港道路生鼻崎線		担 当 課 長 名	小野 茂明	
箇所名	男鹿市船川港金川		担 当 者 名	秋田 諭	
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	02	施 策 名	環日本海交流活動を支える物流ネットワークの整備	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	秋田・能代・船川港取扱貨物量	

## 1. 事業の概要

事業の背景及び目的	船川港の臨港道路生鼻崎線は、国道101号とともに男鹿市船川港と秋田港及び周辺市町村とを結ぶ物流及び県民の日常生活に重要な路線となっている。 周辺道路の整備により、当路線を利用する港湾関連車両やその他の交通が年々増加しており、港湾物流に支障をきたすため、既存臨港道路を拡幅整備し、物流機能を確保する必要があった。						
事業期間	前回(H19年)	H14年 ~ H20年	総事業費	前回(H19年)	41.5億円	国庫補助率	5/10
	終了	H14年 ~ H20年		終了	41.5億円		
事業規模	前回(H19年) 道路拡幅 延長L=3,231m 幅員W=19.25m(0.5-6.5-2-6.5-0.5-3.25) 終了 道路拡幅 延長L=3,231m 幅員W=19.25m(0.5-6.5-2-6.5-0.5-3.25)						
事業効果の要因変化及び発現状況			前回評価計画	最終	増減	理由	
	事業費		4,152,000	4,152,800	800		
	経内費	工事	3,593,000	3,592,913	-87		
		用補	196,000	198,940	2,940	工事借地料、支障移転補償費の増による。	
		その他	363,000	360,947	-2,053		
	事業内容		改良工 トンネル工 舗装工	改良工 トンネル工 舗装工			
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)				
	最終コスト		【便益】 平成19年度に、将来交通量推計の見直しが行われ、平成11年度センサスからの平成42年度交通量予測で-14%との結果が出た。これを受け、前回評価時の平成32年度交通量予測に-14%の補正を見込んで算出したところ、便益が減少した。				
	費用便益		【費用】 前回評価の次年度に完了しているため、費用に大きな変化はない。				
	終了C / 前回評価C = (1.00)						
終了B / C = (2.82)							
目標達成率	指標名	船川港取扱貨物量					
	指標式	船川港での年間取扱貨物量					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値a	800 千トン	H20	データ等の出典	秋田県港湾統計		
	実績値b	520 千トン	H20				
	達成率b/a	65.0 %		把握の時期	平成21年 8月		
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む							
自然環境の変化	特になし。						
社会経済情勢の変化	H20年9月の世界金融危機(リーマン・ショック)の影響等により、貨物量が減少した。						
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	地域住民及び周辺企業へのアンケート調査の結果、約80%が道路拡幅による安全性の向上を感じている。また、通勤・通学時間の短縮が図られたと約50%が回答しており、利便性の向上も確認できた。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成22年11月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に ) 満足度の状況 地域住民や周辺企業から、移動時間の短縮や、安全性が確保された等の高い満足度が得られた。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「環日本海交流活動を支える物流ネットワークの整備」を支援する事業
関連プロジェクト等	県道男鹿半島線生鼻崎工区(臨港道路重用区間H16事業着手) 国道101号男鹿拡幅(供用開始H16年3月) 国道101号羽立バイパス(供用開始H19年9月)
前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項 ・特になし 指摘事項への対応 ・特になし

## 2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 A B C アンケート調査結果から、80%が道路拡幅による安全性向上を感じており、90%が事業に対して満足・やや満足との回答であった。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 船川港の取扱貨物量を目標値として設定したが、木材輸入量の減少等の外的要因により、目標が達成できなかった。	B C
	事業の経済性の妥当性 A B C B/Cが2.82であり、経済性の妥当性が高い。	A
効率性	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	B C
	総合評価 A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に進捗し、地域住民の利便性の向上や交通安全の確保が図られており、住民満足度からも成果が認められたため、当該事業は妥当であると判断する。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

当事業は道路事業との費用負担により実施されたものであり、「港湾物流の円滑化」及び「広域ネットワークの整備」という複合的機能を求められた。今後も適正な事業費総額を把握するとともに、コスト縮減に取り組み、事業効果が最大限発揮出来るよう円滑な事業執行に努める。
---

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

この事業の対応方針を可とする。
-----------------

## 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	